

II 特別連載 II

科学技術 振興機構 『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第288回

新型コロナウイルスの感染拡大の影響による海外からの渡航制限のため、さくらサイエンスプログラムでも招へいが実施できない状況が続いている。科学技術振興機構(JST)では、これまでの交流により醸成された海外の送出国と日本の受入れ機関の良好な関係を継続させるため、また新たな交流に向けた準備のために、各機関によるオンラインプログラムへの支援を続けている。今回は宮崎大学と静岡大学が実施したオンラインプログラムについて紹介する。

宮崎大学の活動報告



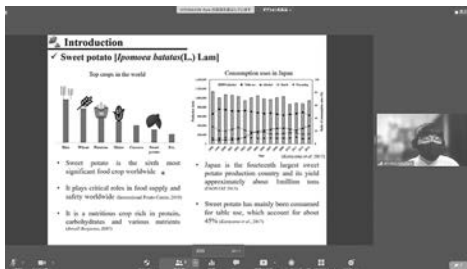
山本 昭洋 (宮崎大学農学部 応用生物科学科准教授)

持続可能な生命・食料・環境 グローバル人材育成へ

2021年11月22日に、宮崎大学農学部、中華人民共和国の青島農業大学植物医学学院、江漢大学医学院との間でオンライン交流を行いました。本来は、2020年度採択分のプログラムとして実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で今年度に繰り越して実施を予定したものでした。残念ながら



集合写真



植物遺伝育種学分野の発表

ら、収束には至らずオンラインでの実施となりました。当初は、タイのカセサート大学農学部・教養学部と大韓民国のソウル市立大学校自然科学大学を含め4カ国5大学の学生が集うプログラムとして計画していましたが、都合がつかず中国の2大学の参加となりました。なお、江漢大学以外の大学とは、大学間(青島農業大学、カセサート大学)または学部間(ソウル市立大学校自然科学大学)交流協定を締結しています(青島農業大学、ソウル市立大学校自然科学大学との交流協定では、筆者が窓口教員になっていきます)。

参加者数は、次のとおり。  
 青島農業大学 学生10名・教員4名  
 江漢大学 学生12名・教員3名  
 宮崎大学 学生7名・教員2名

プログラムの成果

参加大学が減ったことから、オンラインプログラムの英語での研究発表を行うこととしました。各大学から2〜3演題、計8演題の発表があり、1演題あたりの発表時間は質疑応答を含めて15分としました。農学分野だけでも、植物遺伝育種学、植物保護学、植物医科学、植物栄養学に関連する発表があり、さらにCOVID-19感染症を引き起こすSARS-CoV-2の研究などの医学分野の発表も行われ、発表内容は多岐にわたるものでした。対面でも英語でのディスカッションはハードルが高いのですが、オンラインだとそのハードルはさらに高いようで、活発な議論とまではなりませんでしたが(教員は口を挟まず見守る、というルールでした)、学生たちにはよい経験となったと思います。

今後の展望

参加した大学だけでなく、参加できなかった大学も含め、対面での実施を切に望んでいますので、来年度以降、再びさくらサイエンスプログラムにお世話になりたいと思います。新型コロナウイルス感染症の1日も早い収束を願ってやみません。

# 静岡大学の活動報告



間瀬 暢之  
(静岡大学  
グリーン科学技術研究所  
教授)

## グリーン科学技術に関する 4カ国 国際カンファレンス

さくらサイエンスプログラムの支援を受け、2020年7月にB・共同研究活動コースとしてインド国立薬科教育研究所(NIPER)から教員1名と大学院生9名が参画する「持続可能な社会を実現するグリーン科学技術」を企画しました。NIPERは、1991年に創設され、インド政府により医薬品科学分野の先端拠点として「国家重要機関」と1998年以来認定されており、インドだけでなく東南アジア、南アジアにおける医薬品科学分野の研究をリードしている大学院大学です。デリーから約250km北のナガール(モハリー)にキャンパスを置き、修士課程・博士課程において、薬学、毒物学、天然物学、生物工学など、10の専攻による教育・研究を行っています。

しかし、COVID-19のため、来日が可能となり、オンラインプログラムに変更しました。オンラインプログラムとして、国際カンファレンス「International Conference on Green Science and Technology (ICGST)」を2021年9月21日、22日に開催しました。このカンファレンスは、NIPER

(インド)だけでなく、ガジャマダ大学(インドネシア)、マレーシア工科大学(マレーシア)、マレーシアアプトラ大学(マレーシア)、静岡大学(日本)の5大学(4カ国)で2019年から打合せを続け、世界で初めて開催されたグリーン科学技術に関する国際カンファレンスになります。

1回目の開催となるカンファレンスは、両日で約270名の方が参加され、静岡大学グリーン科学技術研究所が議長国となり、同研究所の朴所長が議長挨拶の中で、なぜ今グリーン科学技術が必要なのか、また、このカンファレンスを開催する目的や各大学との共同研究について紹介がありました。続いて、グローバル課題として掲げられている17の持続可能な開発目標(SDGs)の内、2(飢餓をゼロに)、3(すべての人に健康と福祉を)、7(エネルギーをみんなに)そしてグリーンに)の3つの目標にフォーカスし、各国から推薦された研究者による講演(特別講演1件、基調講演3件、招待講演10件)と学生(24件)による発表が2日間にわたってありました。NIPERからも3件の学生発表があり、Amanpreet Kaurさんが「Best Presentation Award for the most outstanding presentation」を受賞されました。COVID-19のため、制限された活動の中でも研究を続け、受賞されたことは称賛に値します。

今回のオンラインプログラムはNIPERに限定された取り組みではありませんが、各国の複数の機関からの参画と発表、そして、ポスター発表における交流があり、当初の想定を超える記念すべきカンファレンスになりました。このような貴重な機会を与えていただいた科学技術振興機構に深くお礼を申し上げます。

### Student Presenters



発表した学生さんたち

### Steering committee



Chairperson: Enoch Y. Park (SU)  
India: Inder Pal Singh (NIPER), Arvind Bansal (NIPER)  
Indonesia: Siti Subandiyah (UGM), Tri Jeko (UGM)  
Malaysia: Hesham El Enhasy (UTM), Mariatuqabiah Abdul Raazak (UPM)  
Japan: Nobuyuki Mase (SU), Noriko Matsuda (SU)

### 実行委員会メンバー

#### Organized by:



Research Institute of Green Science and Technology, Shizuoka University (RIGST, Japan)

#### Co-organized by:



National Institute of Pharmaceutical Education and Research (NIPER, India)  
Universitas Gadjah Mada (UGM, Indonesia)  
Universiti Putra Malaysia (UPM, Malaysia)  
Universiti Teknologi Malaysia (UTM, Malaysia)  
Shizuoka University (SU, Japan)

#### Supported by:

- Japan Science and Technology Agency
- Headquarters for Promotion of Interdisciplinary Domain Research
- Consortium for Innovative Food-and Bio-Industry at Shizuoka University
- Shizuoka Industrial Foundation

### 参加機関の一覧